

平安京右京三条二坊九・十町  
西ノ京遺跡・御土居跡

2010年

古代文化調査会



平安京右京三条二坊九・十町  
西ノ京遺跡・御土居跡

2010年

古代文化調査会



## 例　　言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市中京区西ノ京東中合町 67 番地において、スポーツ施設建設に伴い実施した平安京右京三条二坊九・十町・西ノ京遺跡・御土居跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は上島織物株式会社より委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集は上村がおこなった。
5. 図面及び遺物整理は、上村が分担し、遺物の実測は板谷桃代、上垣雅子、須貝淑恵、水谷明子がおこない、製図は上村が担当した。
6. 本書の執筆は上村がおこなった。
7. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値は m 単位で、水準は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
8. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の 2500 分の 1 の地図（花園・山ノ内）を調整し、使用した。
9. 土壤の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
10. 遺構番号は実測図・写真ともに共通している。
11. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太 上嶋 犀 上嶋洋志 宇野隆志 馬瀬智光 梶川敏夫 金本武文  
北崎仁志 北田栄造 佐々木信夫 西森正晃 西山良平 長谷川行孝 堀 大輔  
宮原健吾  
上島織物（株）（株）明輝建設（株）インターリビング（株）大高建設  
(財) 京都市埋蔵文化財研究所 (有) 京都編集工房

## 本文目次

平安京右京三条二坊九・十町・西ノ京遺跡・御土居跡

|          |    |
|----------|----|
| I 調査の経緯  | 1  |
| II 調査の経過 | 1  |
| III 遺構   | 4  |
| IV 遺物    | 10 |
| V 小結     | 14 |

## 図版目次

|       |  |
|-------|--|
| 図版 1  | 遺跡 遺構実測図                               |
| 図版 2  | 遺跡 A 区遺構実測図                            |
| 図版 3  | 遺跡 B 区遺構実測図                            |
| 図版 4  | 遺跡 A 区北壁、東壁実測図                         |
| 図版 5  | 遺跡 A 区南壁、西壁実測図                         |
| 図版 6  | 遺跡 B 区東壁、南壁、西壁実測図                      |
| 図版 7  | 遺跡 柱穴実測図                               |
| 図版 8  | 遺跡 柱穴実測図                               |
| 図版 9  | 遺跡 柱穴実測図                               |
| 図版 10 | 遺跡 セクション実測図                            |
| 図版 11 | 遺跡 1 調査前風景（南西から）<br>2 A 区全景（西から）       |
| 図版 12 | 遺跡 1 A 区建物 01（北西から）<br>2 A 区建物 02（西から） |
| 図版 13 | 遺跡 1 A 区建物 03（東から）<br>2 A 区柵列 01（北西から） |

- 図版 14 遺跡 1 A 区土壙 76 (南から)  
 2 A 区土壙 113 (北から)  
 3 A 区柱穴 263 (南から)  
 4 A 区柱穴 154 (西から)  
 5 A 区土壙 221 (北から)  
 6 A 区柱穴 301 (北から)  
 7 A 区柱穴 255 (南から)  
 8 A 区柱穴 298 (北から)

- 図版 15 遺跡 1 B 区全景 (北東から)  
 2 B 区全景 (西から)

- 図版 16 遺跡 1 B 区建物 04 (南西から)  
 2 B 区推定押小路道路部分 (西から)

- 図版 17 遺跡 1 B 区押小路路面推定部分 (西から)  
 2 B 区押小路路面推定部分 (東から)  
 3 B 区柱穴 514 (南から)  
 4 B 区柱穴 419 (北から)  
 5 B 区柱穴 420 (北から)  
 6 B 区柱穴 421 (北から)  
 7 B 区柱穴 423 (北から)  
 8 B 区土壙 488 (北から)

- 図版 18 遺物 A 区包含層・A 区土壙 76・A 区土壙 113・B 区溝 404・B 区断割・A 区柱穴  
 263 出土遺物

## 挿 図 目 次

|     |              |   |
|-----|--------------|---|
| 図 1 | 調査地位置図       | 1 |
| 図 2 | 平安京条坊と調査地位置図 | 2 |
| 図 3 | 四行八門と調査位置関係図 | 2 |
| 図 4 | 周辺の調査と今回の調査地 | 2 |
| 図 5 | A 区建物 01 実測図 | 5 |
| 図 6 | A 区建物 02 実測図 | 5 |
| 図 7 | A 区建物 03 実測図 | 5 |
| 図 8 | B 区建物 04 実測図 | 6 |

|      |                    |    |
|------|--------------------|----|
| 図 9  | A 区柵列 01 実測図       | 6  |
| 図 10 | A 区個別遺構実測図         | 7  |
| 図 11 | B 区個別遺構実測図         | 8  |
| 図 12 | B 区断割下層出土土器実測図     | 10 |
| 図 13 | A 区包含層出土土器実測図      | 11 |
| 図 14 | A 区土壙 76 出土土器実測図   | 12 |
| 図 15 | A 区土壙 113 出土土器実測図  | 12 |
| 図 16 | A 区柱穴 267 出土土器実測図  | 12 |
| 図 17 | B 区溝 402 出土土器実測図   | 12 |
| 図 18 | B 区溝 404 出土土器実測図   | 12 |
| 図 19 | 出土瓦写真・実測図          | 13 |
| 図 20 | A 区包含層出土土製品実測図     | 14 |
| 図 21 | A 区柱穴 263 出土石製品実測図 | 14 |

# 平安京右京三条二坊九・十町 西ノ京遺跡・御土居跡

## I 調査の経緯

調査地は京都市中京区西ノ京東中合町 67 番地である。当地は周知の遺跡・平安京右京三条二坊九・十町、および西ノ京遺跡（弥生～古墳時代）、近世の御土居跡に該当する。2008 年、京都市文化市民局文化財保護課による試掘調査の結果、柱穴群が認められたため発掘調査の指導がなされた。そして、京都市の指導のもと施主との三者協議の結果、当調査会が 2009 年 12 月 1 日より発掘調査をおこなうこととなった。

## II 調査の経過

敷地は平安京右京三条二坊九町から十町にまたがっている。九町は北が二条大路、南は押小路、東は西堀川小路、西は野寺小路に接している。十町は北側に押小路、南は三条坊門小路に接し、東西は九町と同様である。

また、九町の西隣にあたる十六町の現西京高等学校、同附属中学校の敷地内では、1999～

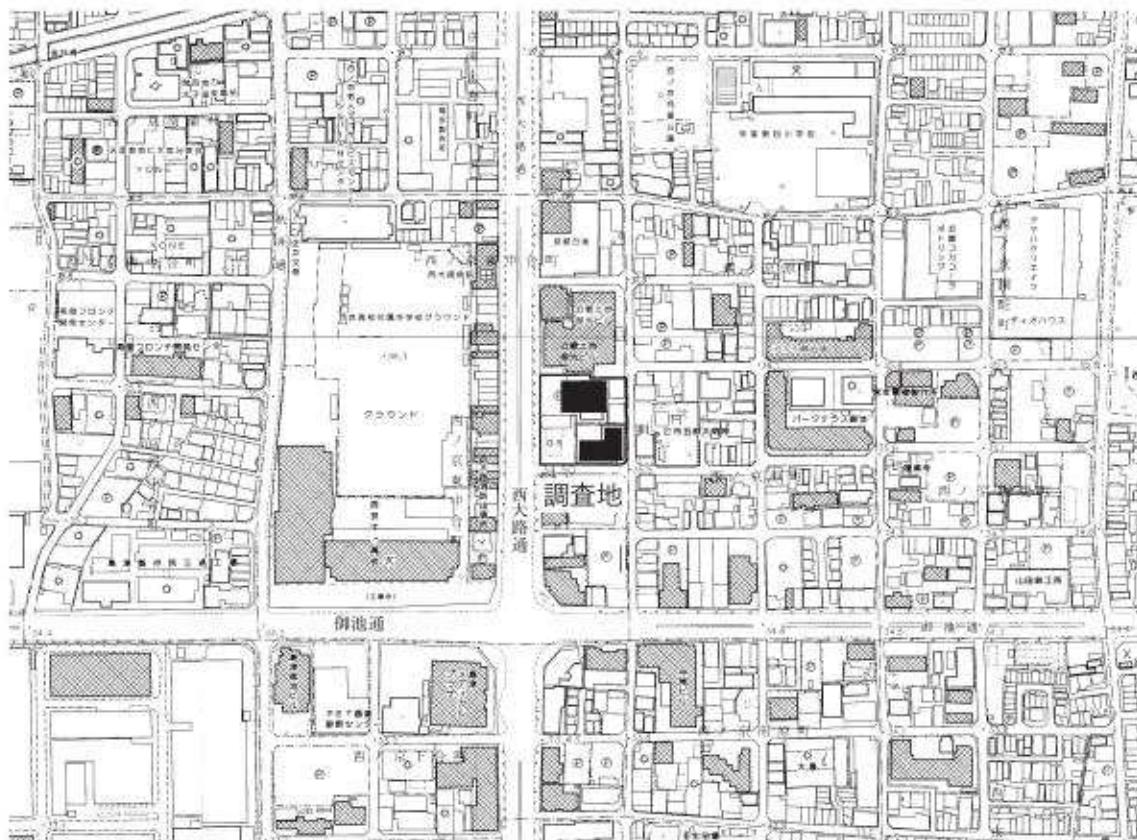


図 1 調査地位置図 (1/5,000)

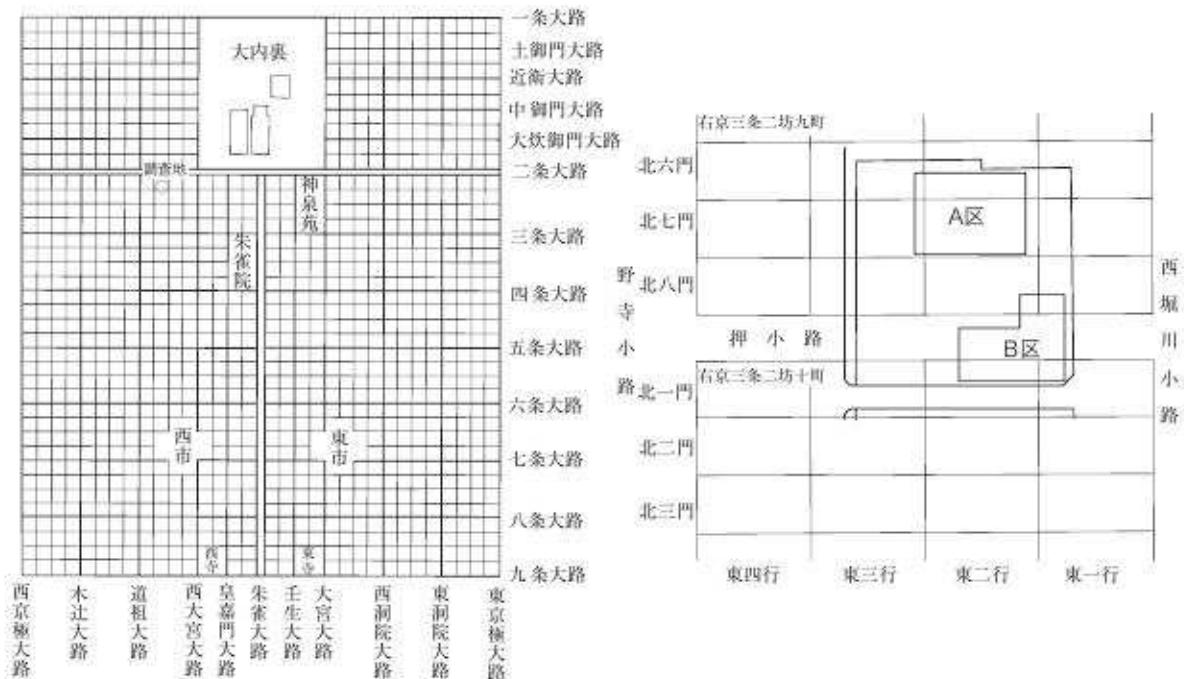


図2 平安京条坊と調査地位置図

図3 四行八門と調査位置関係図(1/2,000)

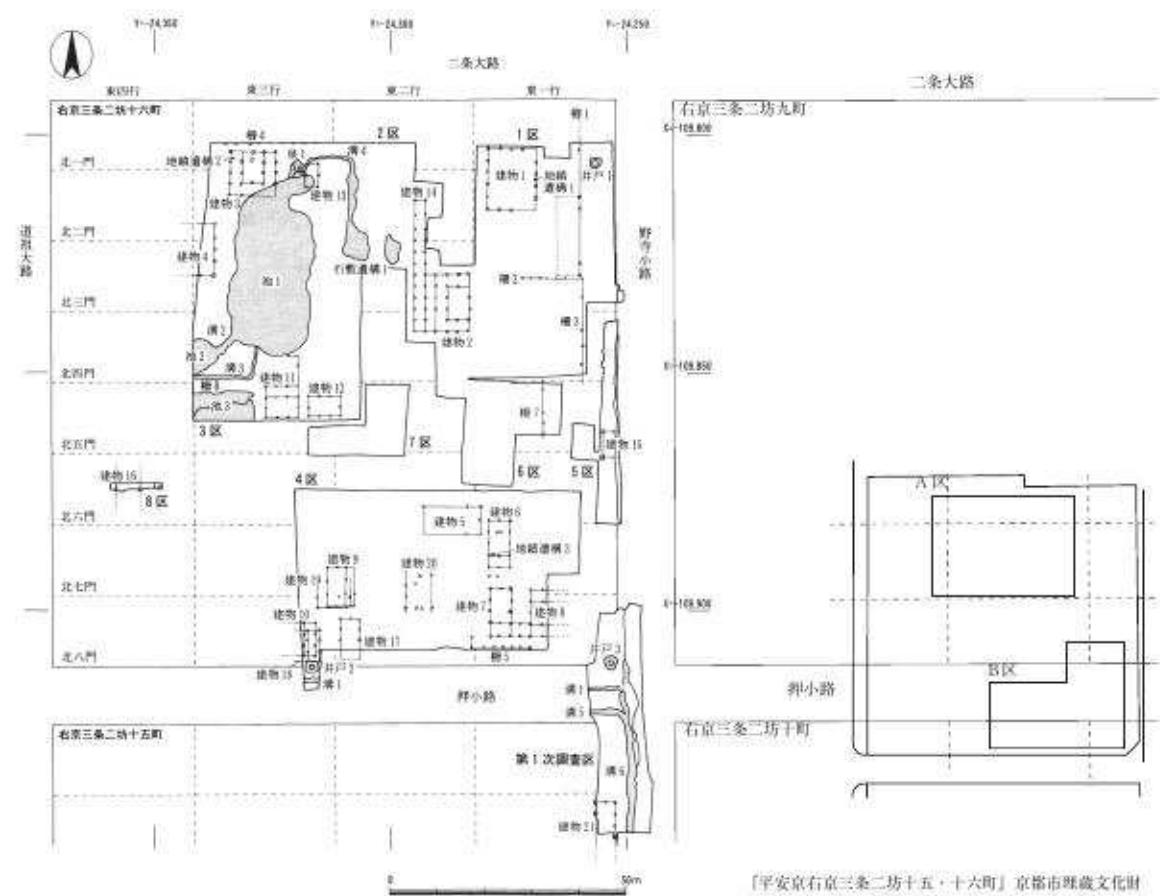


図4 周辺の調査と今回の調査地(1/1,600)

2000 年の調査で、「斎宮」「斎雜所」等の墨書き土器を伴った邸宅とその庭園遺構が確認され衆目を集めた。<sup>31</sup>

調査トレンチは九町の東二行の北六～七門にかかる部分を A 区とし、東一～二行北八門から押小路部分を含み、十町の北一門にかかる部分を B 区として設定した。調査は平成 21 (2009) 年 12 月 1 日から翌年 2 月 22 日までの間、実働 50 日間を要した。調査面積は約 1,123 m<sup>2</sup> であった。

なお、調査の方法としては、(財) 京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系 VI による平安京の復原モデル 60 を使用し、4m メッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。右京三条二坊九、十町の築地四隅の座標値 (新測地系) はそれぞれ以下の通りである。

右京三条二坊九町

|    |                                       |    |                                       |
|----|---------------------------------------|----|---------------------------------------|
| 北西 | X = - 109,445.44m<br>Y = - 24,501.25m | 北東 | X = - 109,444.95m<br>Y = - 24,381.87m |
| 南西 | X = - 109,564.83m<br>Y = - 24,500.77m | 南東 | X = - 109,564.34m<br>Y = - 24,381.38m |

右京三条二坊十町

|    |                                       |    |                                       |
|----|---------------------------------------|----|---------------------------------------|
| 北西 | X = - 109,576.77m<br>Y = - 24,500.72m | 北東 | X = - 109,576.28m<br>Y = - 24,381.33m |
| 南西 | X = - 109,696.16m<br>Y = - 24,500.23m | 南東 | X = - 109,695.67m<br>Y = - 24,380.84m |

### III 遺構

現表土下 0.8 ~ 1.2m 程で 10 世紀の土器を含む包含層の上面に達する。包含層は主に A 区で一様に認められ概ね 20cm 前後の厚さで認められた。B 区では搅乱のために包含層が確認できるのはごく一部であった。この包含層を除去すると 10 世紀の柱穴群を主体とした遺構群が現れる。調査区北東部では 10YR6/4 のにぶい黄橙色系の色調の泥砂土がベースとなるが、南西方向には 10YR2/2 黒褐色系の粘質土、シルトが遺構面のベースとなる。この粘質土、シルトは南西方向に低くなる地勢に沿った低みに堆積した土層である。この土層の下層からは古墳時代の須恵器杯 H の蓋が出土している。包含層より上層は江戸時代以降の堆積が直接被っており、中世の遺構も認められず耕作地として利用されつづけていたものと推定される。

#### 平安時代

平安時代前期の遺構は確認されていない。A・B 区で建物 4 棟と柵列一条、土器や石が入れられた柱穴や土壙、B 区で東西方向の溝などが認められた。

##### 建物 01 (図版 1・2・7・11 の 2・12 の 1、図 5)

A 区の南西の隅部分で検出。南北棟と見られ、東西一間、南北三間部分を検出。全体の規模は調査区外にあり不明である。柱間は 2.4 m を測る。柱穴 234 は拳大以下の礫が多く入り、柱穴 241・245 には根石が認められる。10 世紀代の遺構である。

##### 建物 02 (図版 1・2・7~8・11 の 2・12 の 2、図 6)

A 区の中央部のやや南側で検出。南面に廂がつく二間×四間の東西棟である。建物の全体規模は東西 9.8m、南北 7.2m であり、廂の幅は 2.6m を測る。基本的には一間 2.4m で計画されたものと見られるが施工誤差が大きくなっている。柱穴 180・176・193・219・284・344・270・339・289 では石が確認されている。10 世紀代の遺構である。

##### 建物 03 (図版 1・2・8・11 の 2・13 の 1、図 7)

A 区の北東部で検出。南東隅の柱痕跡が未発見であるが、二間×二間の総柱の建物かと見ていている。柱間は 2.4m である。10 世紀代の遺構である。

##### 建物 04 (図版 1・3・9・15 の 1 と 2・16 の 1・17 の 6、図 8)

B 区の南西部で検出。東西三間、南北二間以上あり北面に廂がつく。建物の大半は調査区外にあり全体規模は不明である。柱穴 421 には平瓦の破片が入れられていた。柱穴 461 は石が入っている。10 世紀代の遺構である。建物の北縁は押小路の南築地の推定ラインと重なっている。

##### 柵列 01 (図版 1・2・8~9・11 の 2・13 の 2、図 9)

A 区建物 02 の南側に、調査区中央から東方向に延びる柵列を検出した。東部分ではベースの土層がシルト質や砂を含むため、柱穴の形状がかなり崩れた状態となっている。柱間は 2.4m と考えられるが、東端は柱穴 309 ではなく 312 の可能性も考えられる。柱穴 298・301・309 には礫などが多く含まれる。10 世紀代の遺構である。

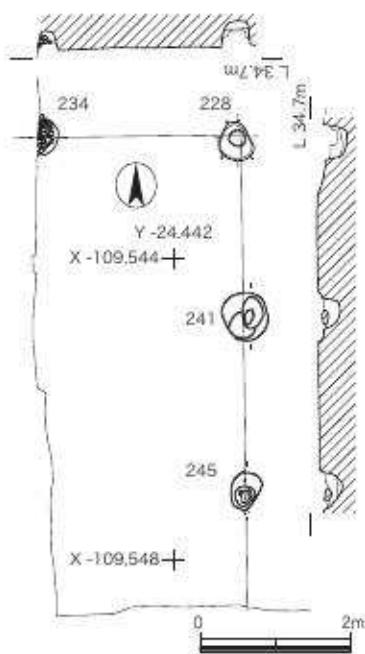


図5 A区建物01実測図 (1/100)

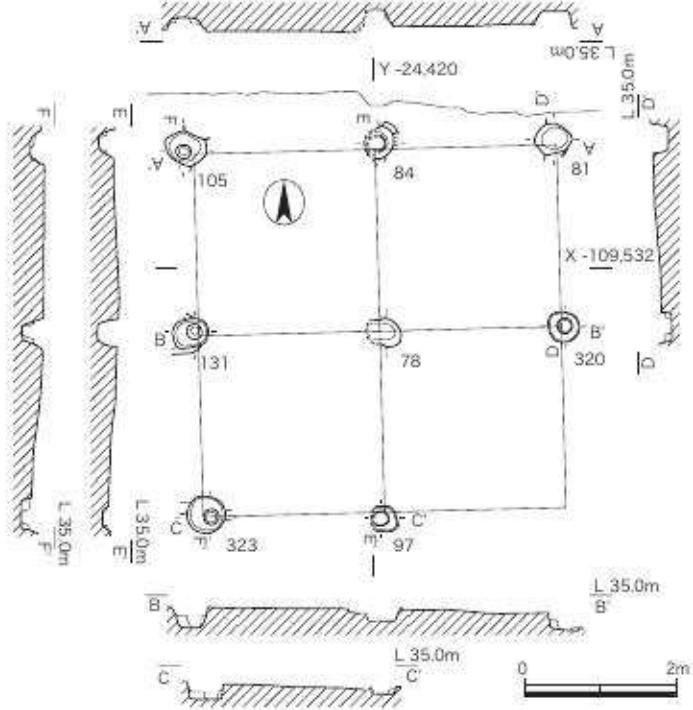


図7 A区建物03実測図 (1/100)

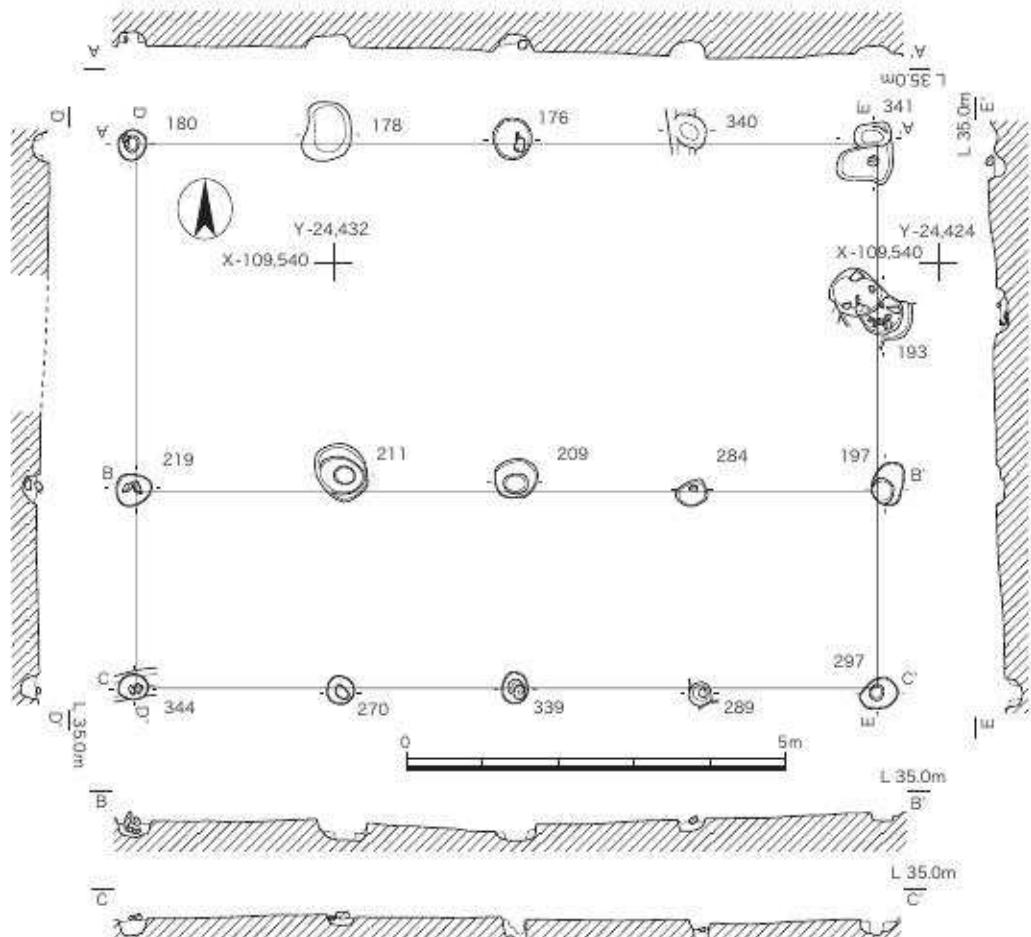


図6 A区建物02実測図 (1/100)

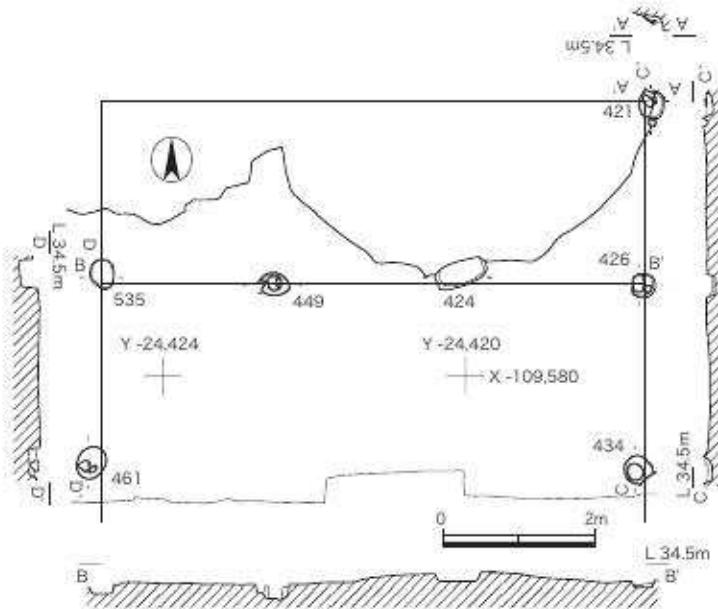


図8 B区建物04実測図(1/100)

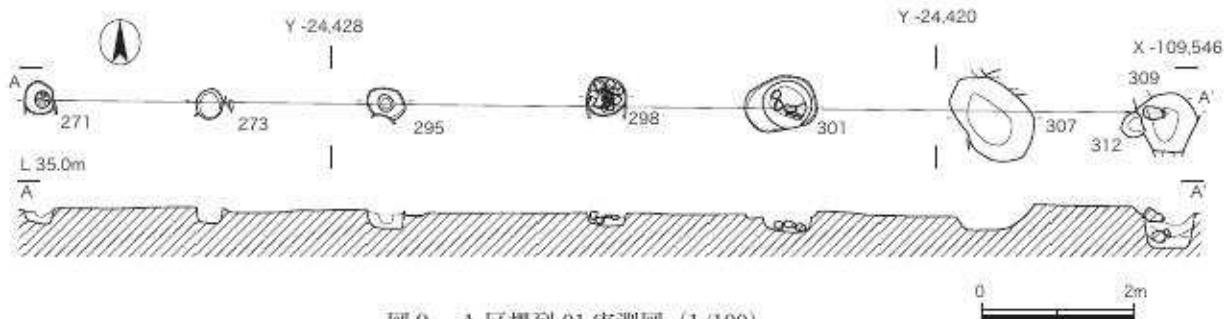


図9 A区柵列01実測図(1/100)

#### 土壤 113 (図版1・2・11の2・13の1・14の2、図10)

A区の北東部で検出。東西0.5m、南北0.67mのやや北側でふくらんだ楕円形のプランで、深さは0.08mを測る。堆積土は10YR3/2黒褐色粘質土で礫は殆ど入っていなかった。底部南側に綠釉陶器碗が伏せた状態であった。10世紀代の遺構である。

#### 柱穴 154 (図版1・2・11の2・14の4、図10)

A区北西部で検出。東西0.50m×南北0.55mのほぼ円形で、径5~10cmの礫が多量に入り、7.5YR3/1黒褐色砂泥が堆積する。深さは0.22mを測る。10世紀代の土器類が出土している。

#### 土壤 221 (図版1・2・11の2・14の5、図10)

南北0.88m×東西0.80mのほぼ円形の掘形を持つ。A区南西部、建物02の壇部分と重なる位置にある。掘形の中央部に須恵器の甕がつぶれた状態で出土した。深さは0.10m程である。10世紀代の遺構である。

#### 柱穴 255 (図版1・2・11の2・14の7、図10)

A区西部の南壁沿いに検出。東西5.5m、南北0.76m以上を測る。深さは0.22m程で、径10~20cmの礫が多量に入る。10世紀代の遺構である。

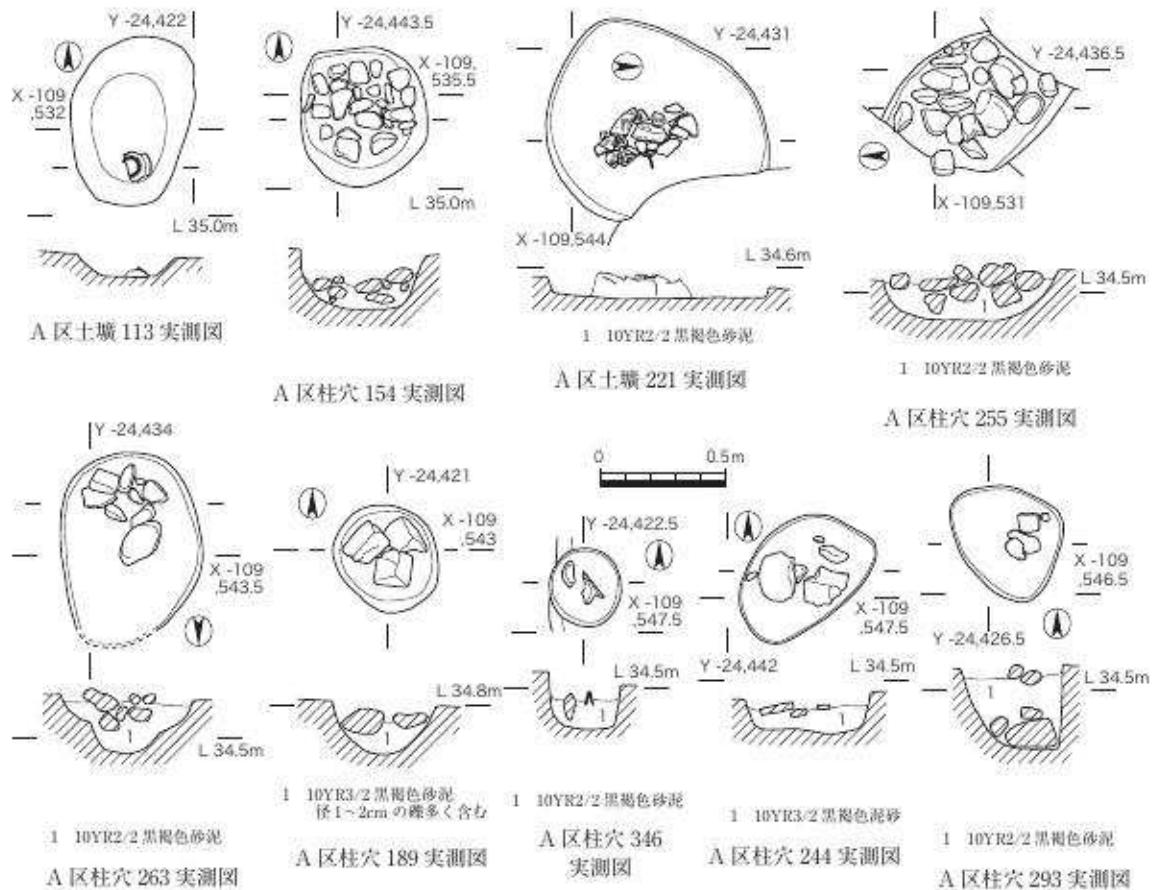


図 10 A 区個別遺構実測図 (1/30)

#### 柱穴 263 (図版 1・2・11 の 2・14 の 3、図 10)

A 区の南西部で検出。東西 0.55m、南北 0.78m、深さ 0.22m を測る。径 3 ~ 20cm の礫が多く入る。  
10 世紀代の遺構である。

#### 柱穴 189 (図版 1・2・11 の 2・12 の 2、図 10)

A 区の東部の南側で検出。径 0.42m 前後の円形の平面で、深さ 0.20m を測る。径 15cm 前後の  
礫が 3 個据えられている。10 世紀代の遺構である。

#### 柱穴 346 (図版 1・2・12 の 1、図 10)

A 区の南西隅で検出。径 0.30m 前後の円形の掘形で、深さは 0.20m を測る。図示出来なかつたがかまどの破片や 10 世紀代の土器が出土している。

#### 柱穴 244 (図版 1・2・12 の 1、図 10)

A 区の南西隅で検出。東西 0.50m、南北 0.52m の変形した楕円形のプランで、深さは 0.15m 程  
である。礫、平瓦の破片、10 世紀の土器類などが入る。

#### 柱穴 293 (図版 1・2・11 の 2・12 の 2・13 の 2、図 10)

A 区の中央の南壁よりで検出。径 0.45m 前後の扁円形のプランを持ち、深さ 0.34m を測る。  
底部付近に径 20cm ほどの石が据えられていた。10 世紀代の遺構である。

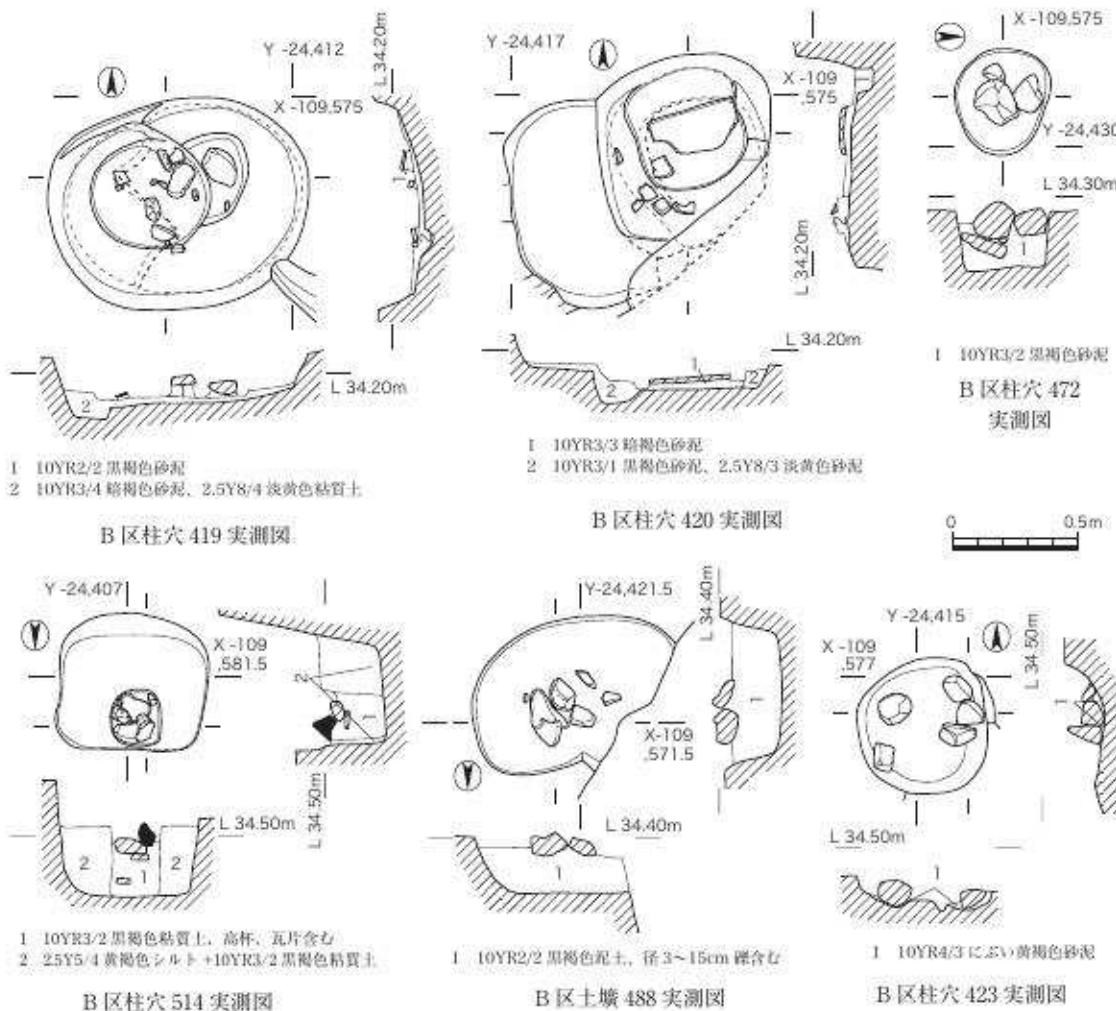


図 11 B区個別遺構実測図 (1/30)

#### 柱穴 419 (図版 1・3・15 の 1 と 2・17 の 4、図 11)

B区のほぼ中央部で検出。東西 1.04m、南北 0.83m を測る。底部は検出面から 0.20m ほどであるが西側が更に一段深くなっているのでそこでは深さは 0.25m を測る。10世紀代の遺物が出土している。

#### 柱穴 420 (図版 1・3・15 の 1 と 2・17 の 5、図 11)

B区のほぼ中央部、柱穴 419 の西側約 4 m ほどの位置で検出。東西方向で 1.05m、南北方向で 1.00m を測るがプラン形状から見て 2つの遺構が切り合っている可能性も高い。底部の一段深くなっているところでは検出面より 0.28m を測る。平瓦の破片、土器片などが入っており、10世紀代の遺構である。この遺構と、柱穴 419 は試掘の段階で発見されており、ちょうど押小路の南築地、犬走、側溝の推定位置に当ることから、押小路が施工されていない状況が考えられ注目された。今回の調査ではこれらと関連しそうな遺構は見つかっていない。

#### 柱穴 472 (図版 1・3・15 の 1 と 2、図 11)

B区の西端部で検出。この遺構も押小路南側の側溝、犬走の位置に重なる。平面は径 0.40m 前後を測るほぼ円形で深さは 0.24m を測る。径 15cm 程の大碟が入れられていた。10世紀代の遺

構である。

柱穴 514 (図版 1・3・15 の 1 と 2・17 の 3、図 11)

B 区の東部南壁沿いで検出。東西 0.58m、南北 0.53m の隅丸方形の平面で、柱当りは径 0.20m 前後で南側に位置する。深さは 0.45m を測る。柱当りの埋土中には土師器高杯の破片が埋納されていた。当遺跡の中では残存状況の良い遺構である。10 世紀代の遺構である。

土壙 488 (図版 1・3・15 の 1 と 2・17 の 8、図 11)

B 区の中央北寄りに位置する。押小路の路面位置に重なる。東西 0.80m、南北 0.58m 以上を測る東西に長い楕円形のプランを持つ。深さは 0.20m である。中央部に径 10 ~ 15cm ほどの石が入る。10 世紀代の遺構である。

柱穴 423 (図版 1・3・15 の 1 と 2・17 の 7、図 11)

B 区のほぼ中央の柱穴 420 の約 1.8m ほど南に位置する。径 0.55m 前後のほぼ円形のプランを持つ。深さは 0.10m 程が残存しており、拳大の碟が多く入れられていた。10 世紀代の遺構である。

溝 402、403 (図版 1・3・15 の 1 と 2・16 の 1 と 2)

B 区東壁沿いで検出。搅乱のためにごく一部の検出にとどまっている。溝 402 は北肩が搅乱で確認できない。溝 403 は幅 1.2 ~ 1.5m、深さ 0.25m を測る。いずれも 10 世紀代の遺物が出土している。押小路の北側側溝の推定位置に近いが、やや南にずれた位置にある。

溝 404 (図版 1・3・15 の 1 と 2・16 の 1 と 2・17 の 1 と 2)

B 区の中央部で東西方向の幅 0.5m 前後を測る溝を検出した。押小路推定位置のほぼ中央やや南寄りに位置している。道路敷設に関連する遺構である可能性が高いが検討を要する。遺構内からは平安京 V 期前半代くらいの土師器が出土した。平安後期の遺構であると判断している。

### 平安時代以降

平安時代以降の遺構は小溝群がある。時期が決定できるまでの情報が得られていない。10 世紀の包含層を切って成立しているものが多く、中世以降の耕作に関連する遺構群であろうと考えている。

## IV 遺 物

出土遺物は整理箱にして 75 箱ある。時代は平安時代の中期のものが多く、大半を占める。平安時代後期以降遺物はほとんど出土していない。平安時代以前の遺物としては 6 世紀代くらいと思われる須恵器杯 H 蓋の破片が出土している。

なお、時代区分は平安京の土器編年をもとにおこなう。<sup>注2</sup>

### 土器

#### B 区断割下層出土土器（図版 18、図 12）

須恵器杯 H の蓋（01）が出土している。6 世紀代のものと見て いる。口径 13.9cm、残高 4.0cm を測る。B 区の Y -24,420.2m セクションラインでの断割で、X -109,572m 付近の 6 層下層より出土 した。天井部外面には自然の降下釉が認められる。胎土は小礫を 少し含み N6/0 の灰色を呈する。



図 12 B 区断割下層  
出土土器実測図(1/4)

#### A 区包含層出土土器（図版 18、図 13）

土師器杯（02～06）、同甕（07）、同羽（鍔）釜（08・09）、黒色土器 A 類小椀（10）、同 A 類椀（11・12）、黒色土器甕（13）、緑釉陶器皿（14・17）、同輪花皿（15・16）、同椀（19・20）、同輪花椀（18）、同香炉（21）、同耳皿（22）、灰釉陶器椀（23～25）、須恵器杯 A（26～28）、同椀（29・30）、同円面硯（31）、同甕（32）、同鉢（33・34）、輸入陶磁器白磁椀（35～37）、同青磁輪花皿（39）、同青磁椀（38・40）、同褐釉壺（41～1～8）等が出土している。

土師器杯は口径 13.6～13.9cm の幅であり、平安京 II 期新～III 期古に該当する特徴を示し、色調はにぶい黄橙色から橙色を呈す。内面から口縁外面をナデて仕上げ、体部外面から底部外面は指押えの痕跡を残す。05 のように体部内面にハケメが残るものもある。08 は体部上位に鍔がつき、色調は 7.5YR6/6 の橙色である。09 は 2.5Y7/2 灰黄色を呈し、胎土に砂粒を含む。口縁外面直下に鍔を貼り付け体部外面には粗いハケメを施す。他のものに比べ器壁が厚い。黒色土器 10 は内外面を丁寧に磨く。11 は内面と外面上位、12 は内面を丁寧に磨く。12 は外面に煤が付着する。緑釉陶器は 17 と 22 が京都産、他は東海産、近江産と思われる。22 の底面は糸切のままとなっ ている。灰釉陶器 23・24 は内面に擦痕が認められる。25 は高台内に墨書が認められるが全形が 残っておらず内容は不明である。須恵器は 26・27 は底部ヘラ切りであるが 28 は糸切となっ いる。27 は口縁部が黒化する。30 の高台は貼り付けとなっている。31 の透かしは六方向と推定さ れる。32 の甕は須恵器としては珍しい出土となっている。33・34 の鉢は篠窯跡群の製品である。輸入陶磁器 35・37 は邢州窯系の製品、青磁は越州窯系の製品であろう。41～1～8 は写真でし か示せなかったが長沙銅官窯系の褐釉貼花文水注の破片と思われる。

#### A 区土壤 76 出土土器（図版 18、図 14）

須恵器小壺（42）が出土している。口縁部が一部欠損するが、ほぼ完形品で高台は貼り付けと

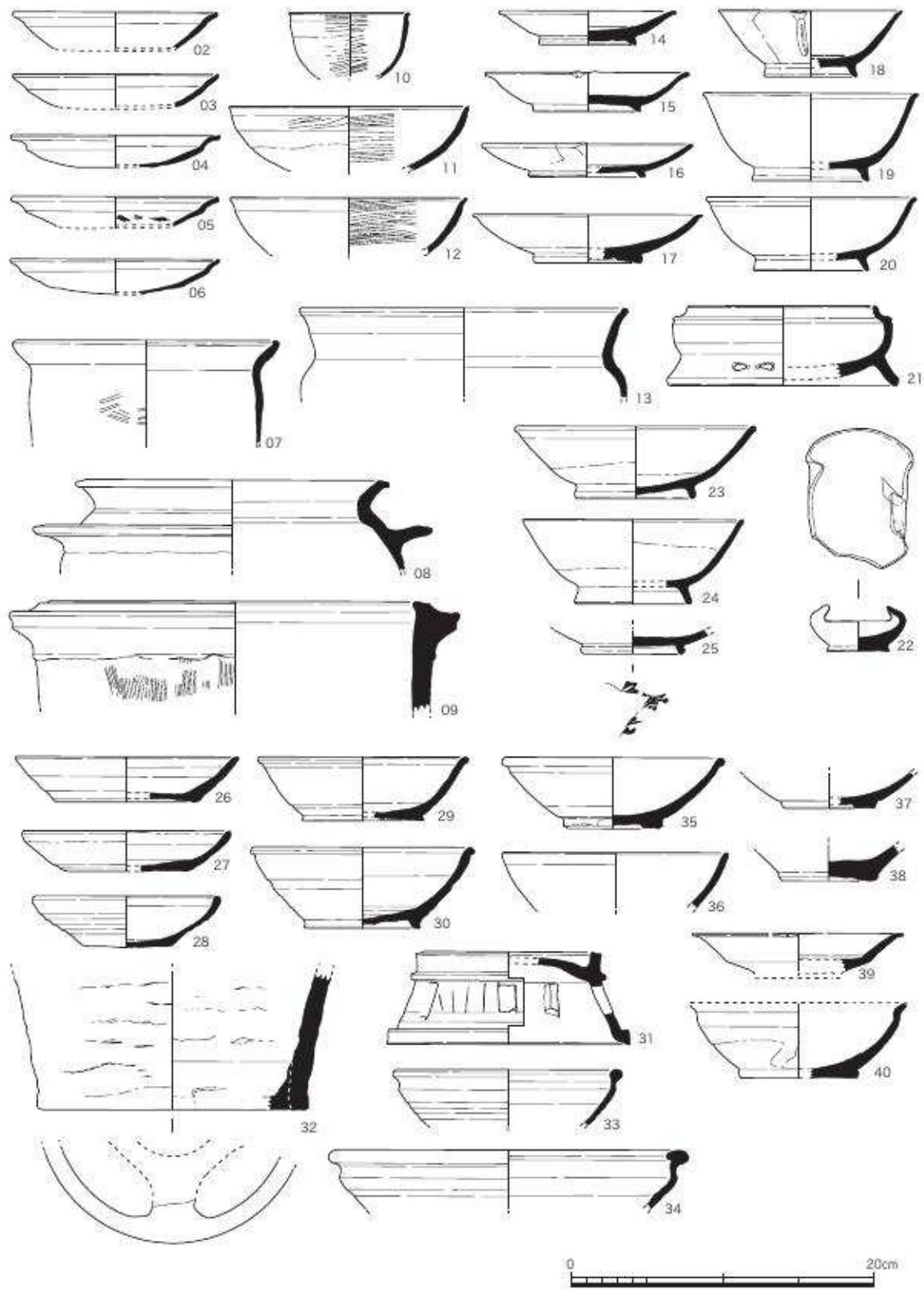


図13 A区包含層出土土器実測図 (1/4)

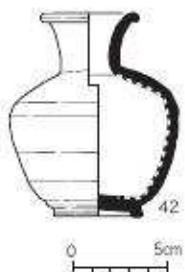


図14 A区土壤76出土  
土器実測図(1/4)

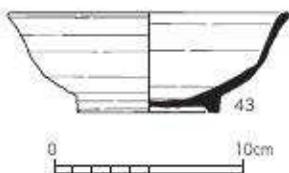


図15 A区土壤113  
出土土器実測図(1/4)

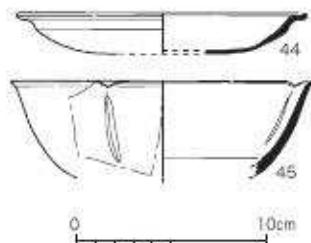


図16 A区柱穴267出土土器実測図(1/4)

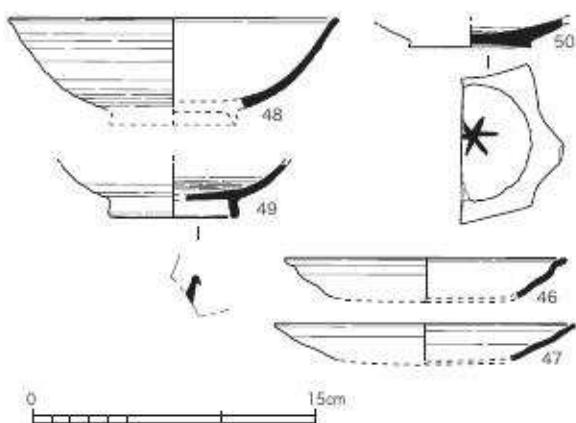


図17 B区溝402出土土器実測図(1/4)

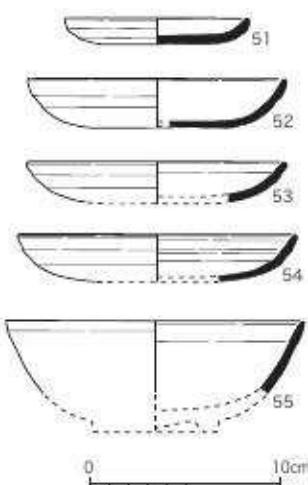


図18 B区溝404出土  
土器実測図(1/4)

なっている。

#### A区土壤113出土土器(図版18、図15)

縁釉陶器椀(43)が出土している。体部中位で屈曲して稜をもち、口縁部はやや外反する。釉は全体に施されているが薄い。高台内も刷毛で薄くかける。篠産の製品と思われる。平安京Ⅲ期古によく見られるものである。

#### A区柱穴267出土土器(図16)

土師器皿(44)と東海産の縁釉陶器輪花椀(45)が出土する。いずれも柱穴の柱当から出土しているもので他の柱穴も同様の土器類が出土している。

#### B区溝402出土土器(図17)

土師器皿(46・47)、灰釉陶器椀(48・49)、須恵器椀(50)などが出土。灰釉陶器48は体部内面と口縁部外周まで施釉している。49は底部内面に摩擦痕、高台内には墨書の痕跡があるが内容は不明。50は底部外面に糸切り痕を残し、記号と思われる墨書を施す。

#### B区溝404出土土器(図版18、図18)

土師器皿N小(51)、同皿N大(52~54)、輸入陶磁器白磁椀(55)などが出土。51は口径9.8cm、52~54は13.8~14.4cmである。平安京V期前半に属する特徴を有する。12世紀代前半期の一群であろう。

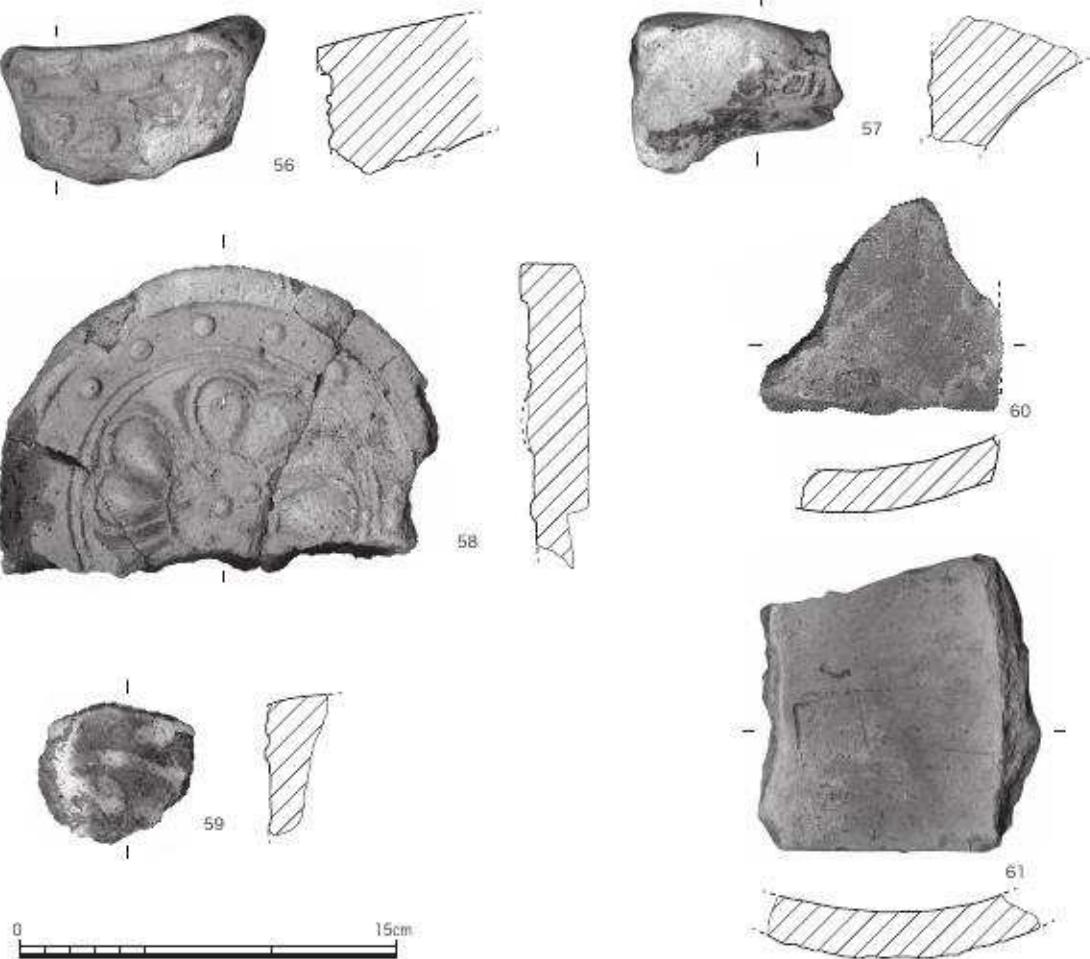


図19 出土瓦写真・実測図（1/3）

### 瓦類（図19）

#### 均整唐草文軒平瓦（56・57）

56は5Y7/1灰白色、59はN4/0灰色を呈する。いずれも平安前期のもので、京都西賀茂産と思われる。両者ともA区の包含層より出土している。

#### 復弁蓮華文軒丸瓦（58・59）

両者ともいわゆる「一本作り」の軒丸瓦である。58は10YR7/2に近い黄橙色、59はN5/0灰色を呈する。裏面はそれぞれ剥離しており、成形調整痕の情報は得られない。両者ともA区の包含層より出土、平安中期の京都産の瓦である。

#### 文字瓦（60・61）

文字が捺された瓦が出土している。いずれも平瓦で、60は「理」、61は「修」の文字が四面に捺されている。60は10YR7/1灰白色、61は2.5Y7/1灰白色を呈する。60はA区の包含層、61はA区柱穴301より出土している。

### 土製品（図版 18、図 20）

A 区の包含層より土製品である土馬（62）が出土している。高さ 5.3cm、長さ 5.6cm と小振りのもので、右後足が欠損する。耳やたて髪などは省略されている。目は細い竹管状のもので施されている。色調は 7.5YR7/6 橙色で、胎土には長石の細粒が含まれる。

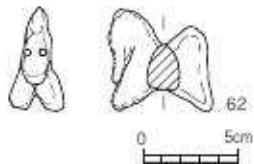


図 20 A 区包含層出土  
土製品実測図 (1/4)

### 石製品（図版 18、図 21）

A 区柱穴 263 より用途不明の石製品（63）が出土している。石は滑石で、直方体を成すが一方と裏面は欠損する。残存している縁は面取が施しており、各面も平滑に加工されている。重量は 780 g である。

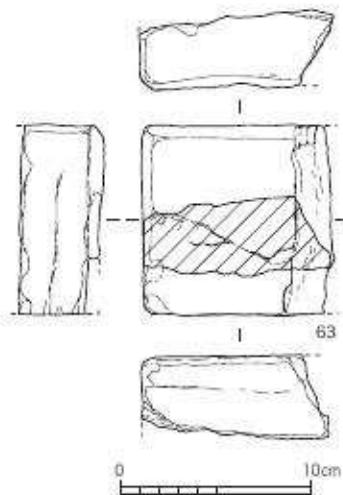


図 21 A 区柱穴 263 出土  
石製品実測図 (1/4)

## V 小 結

今回の調査では、西隣十六町に「斎宮」の邸宅跡が見つかっていること、また試掘調査で大型の柱穴が見つかり、しかも押小路の路面位置に重なっていたこと、押小路の痕跡が認められなかったこと、九町の北辺が二条大路に面していること等々の理由により、南北二町占地など、相応の内容をもった遺構・遺跡の発見が期待された。

しかし、調査の結果、建物四棟、柵列などが見つかっているものの、相応と言える内容のものは見つかっていない。建物のベースとなっている土層は粘質土であったり、シルト質のものであったりで到底居住に適した土質ではないことが判明した。建物は平安中期の一時期に限られ、それ以前の遺構も、それ以後の遺構も無いに等しく、中世以降の耕作溝が見られるのみであった。

押小路についていえば、おそらく地盤の軟弱さを理由に平安京造営当初から施工されていなかった可能性が高いと思われる。B 区の柱穴群の広がりからすれば無かったと考えるほうが自然である。B 区の溝 404 は、建物の時期が終わって耕作地となる平安時代後期に区画の目印として路面のほぼ中央部に一筋の溝が掘られたと見る解釈が成り立つと考えている。すなわち以降も押小路は施工されず、現在の押小路通りがかなり南側にずれているのは、昔からの位置を踏襲してこなかった結果であろうと思われる。

この地でほんの一時期建物があるのは、やはり西隣十六町の「斎宮」の邸宅の関連を抜きには考えられない。条件の悪いところにまで建物を確保しなければならない理由はこれしか無いのではないだろうか。京内の斎王家を支え、運営するのに関連した施設があった可能性が高い。

西ノ京遺跡については南西方に向かって広がる湿地状の堆積が、古墳時代くらいに始まったことが

判明しわざかではあるが成果をあげることが出来た。

なお調査対象遺跡として御土居跡も上げられていたが、調査地の東側の道を挟んでさらに東に御土居が位置しており、かなり離れるために関連するような痕跡を認めることができなかつた。

註1 平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「斎宮」の邸宅跡 - 京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 2002年

財團法人 京都市埋蔵文化財研究所

註2 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第3号』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

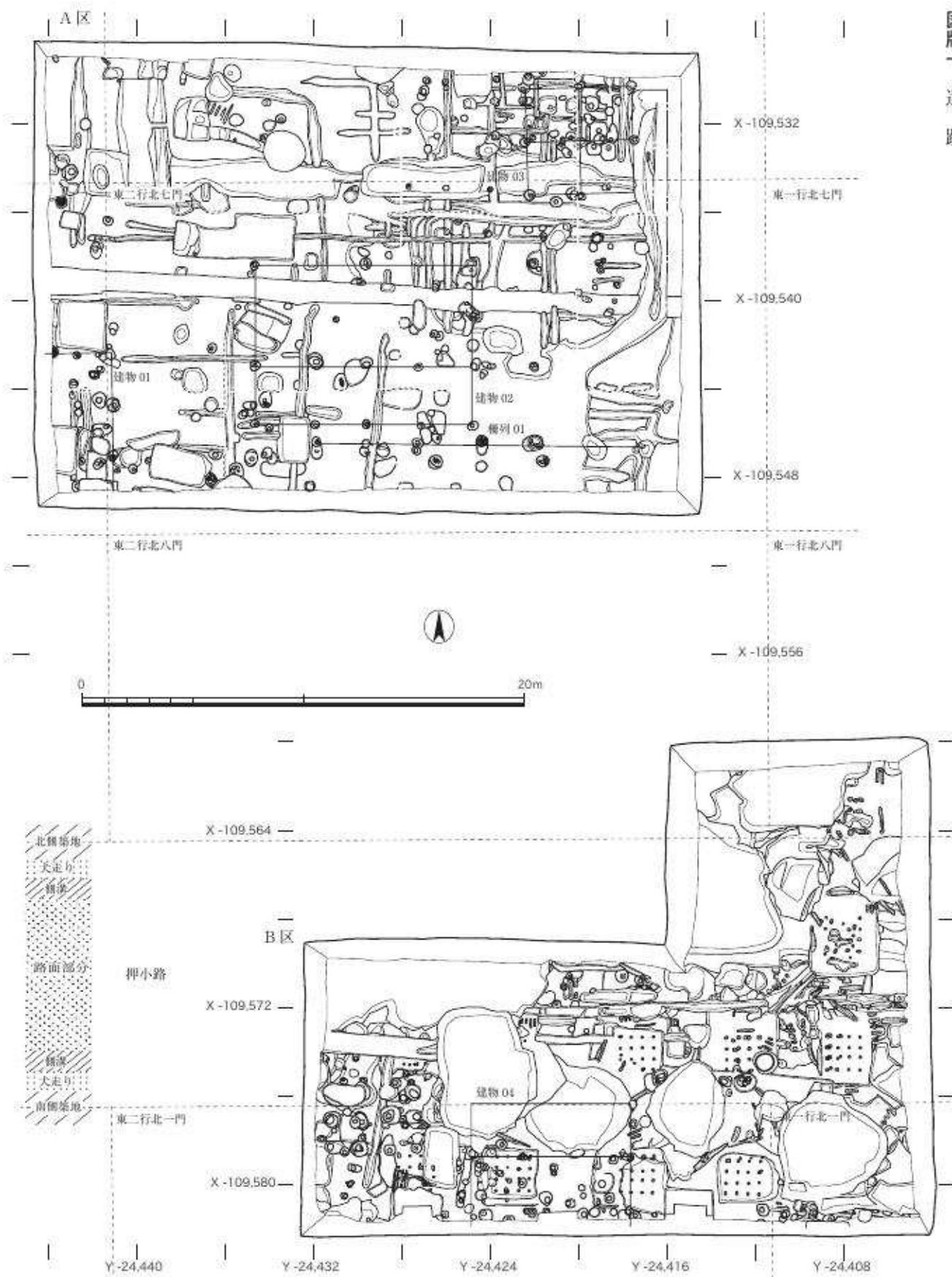
## 報告書抄録

| ふりがな   | へいあんきょううきょうさんじょうにほうきゅう・じゅっちょう・にしのきょういせき・おどいあと |      |       |  |                       |                               |                      |              |
|--|---|------|-------|--|-----------------------|-------------------------------|----------------------|--------------|
| 書名   | 平安京右京三条二坊九・十町・西ノ京遺跡・御土居跡                      |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 副書名  |   |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 卷次   |   |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| シリーズ名  |   |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| シリーズ番号                                       |   |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 編著者名   | 上村憲章  |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 編集機関   | 古代文化調査会                                       |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 所在地  | 〒 658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地 125-1404          |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| 発行年月日  | 2010年6月10日                                    |      |       |  |                       |                               |                      |              |
| ふりがな<br>所収遺跡                                 | ふりがな<br>所在地                                   | コード  |       | 北緯   | 東経                    | 調査期間                          | 調査面積                 | 調査原因         |
| 平安京右京<br>三条二坊<br>九、十町・<br>西ノ京遺<br>跡・御土居<br>跡 | 京都市中京区<br>西ノ京東中合<br>町 67 番地                   | 市町村  | 遺跡番号  | 35 度<br>00 分<br>44 秒                               | 135 度<br>43 分<br>56 秒 | 2009.12.01<br>～<br>2010.02.22 | 1,123 m <sup>2</sup> | スポーツ施<br>設建設 |
| 所収遺跡   | 種別  | 主な時代 | 主な遺構  | 主な遺物   | 特記事項                  |                               |                      |              |
| 平安京右京<br>三条二坊<br>九、十町・<br>西ノ京遺<br>跡・御土居<br>跡 | 都城跡、散布<br>地、土壙跡                               | 平安時代 | 建物、柵列 | 土師器皿、須恵<br>器、綠釉陶器、<br>灰釉陶器、黒色<br>土器、瓦類、土<br>製品、石製品 |                       |                               |                      |              |

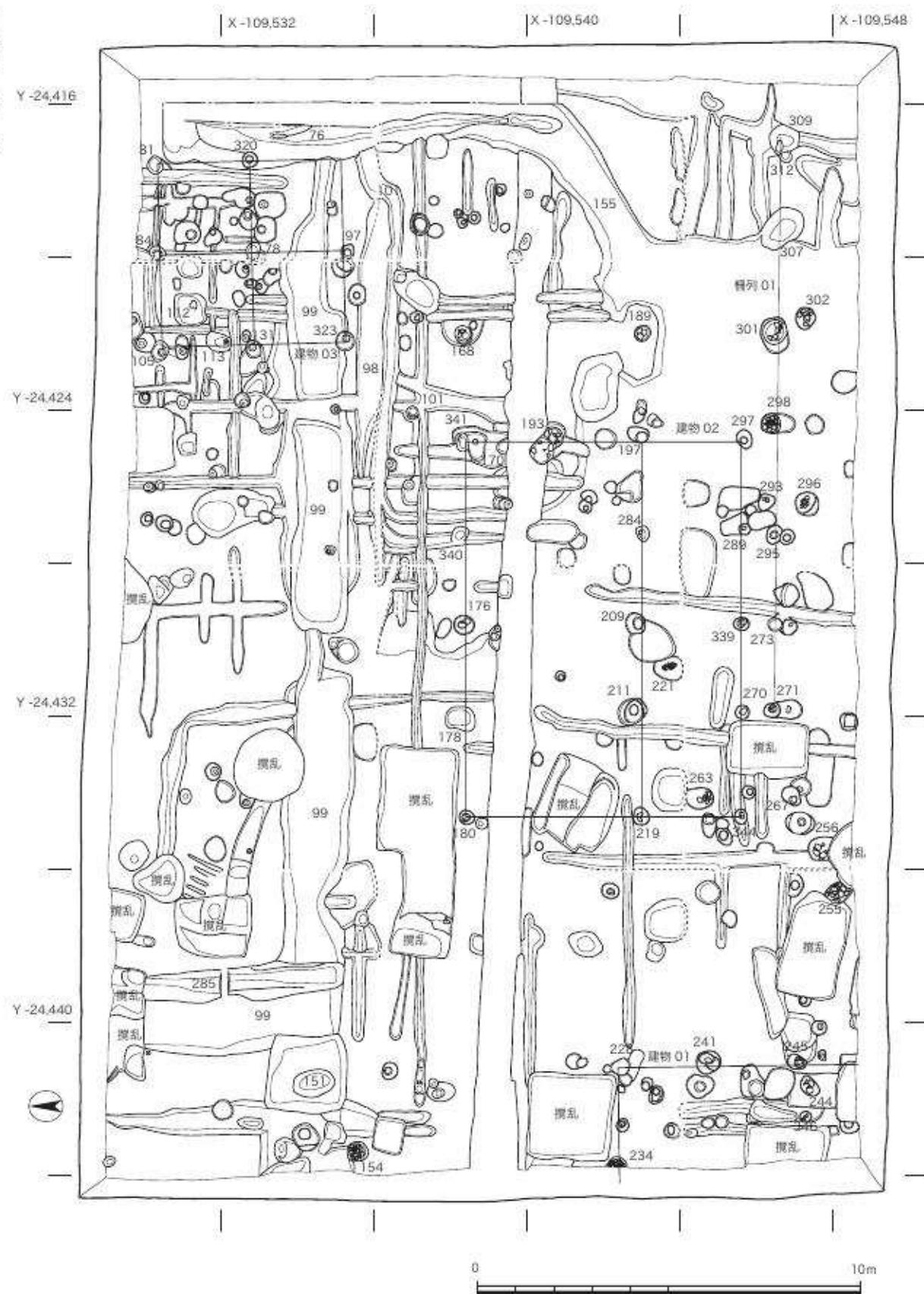
# 図 版

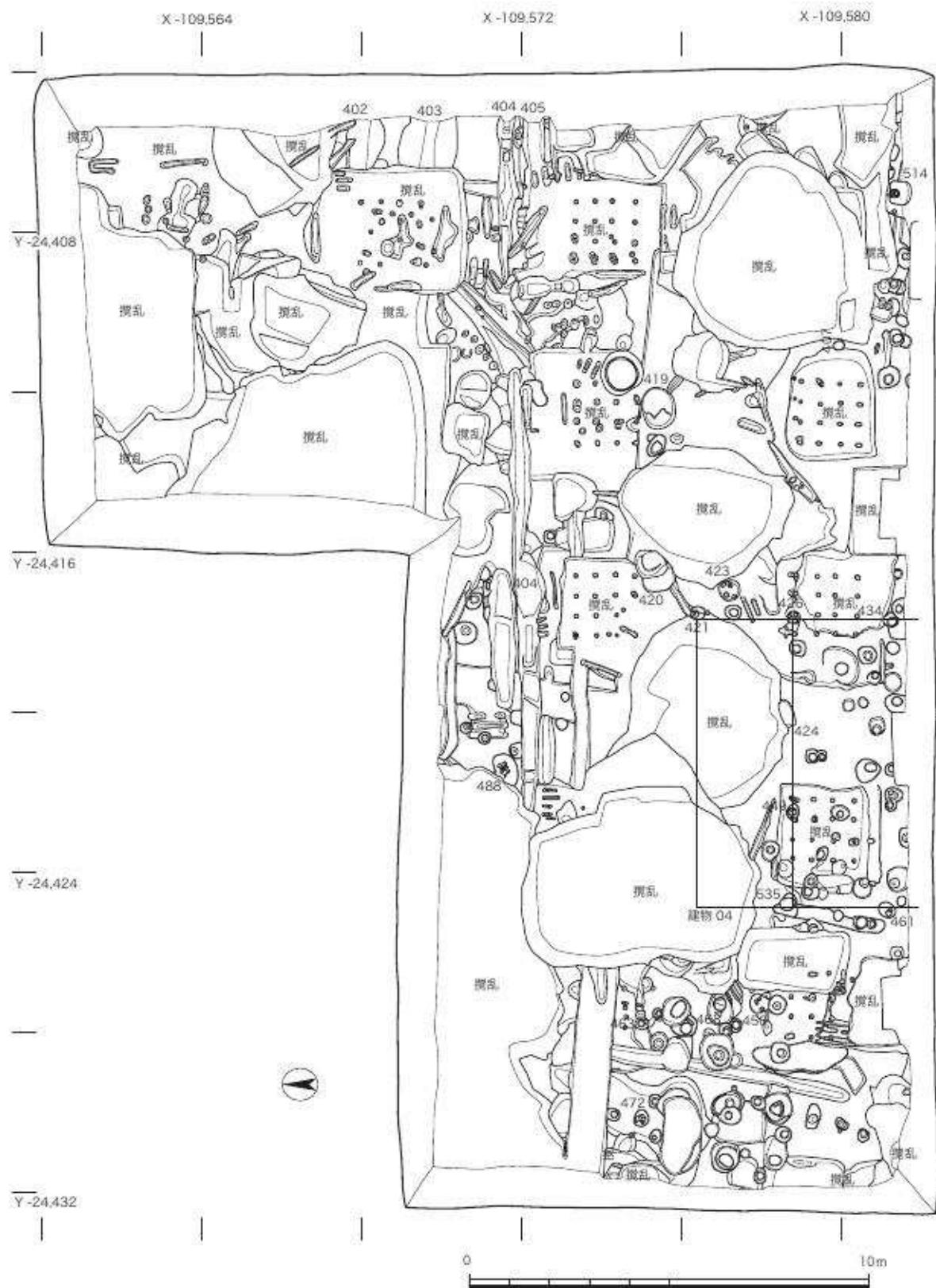


図版一  
遺跡



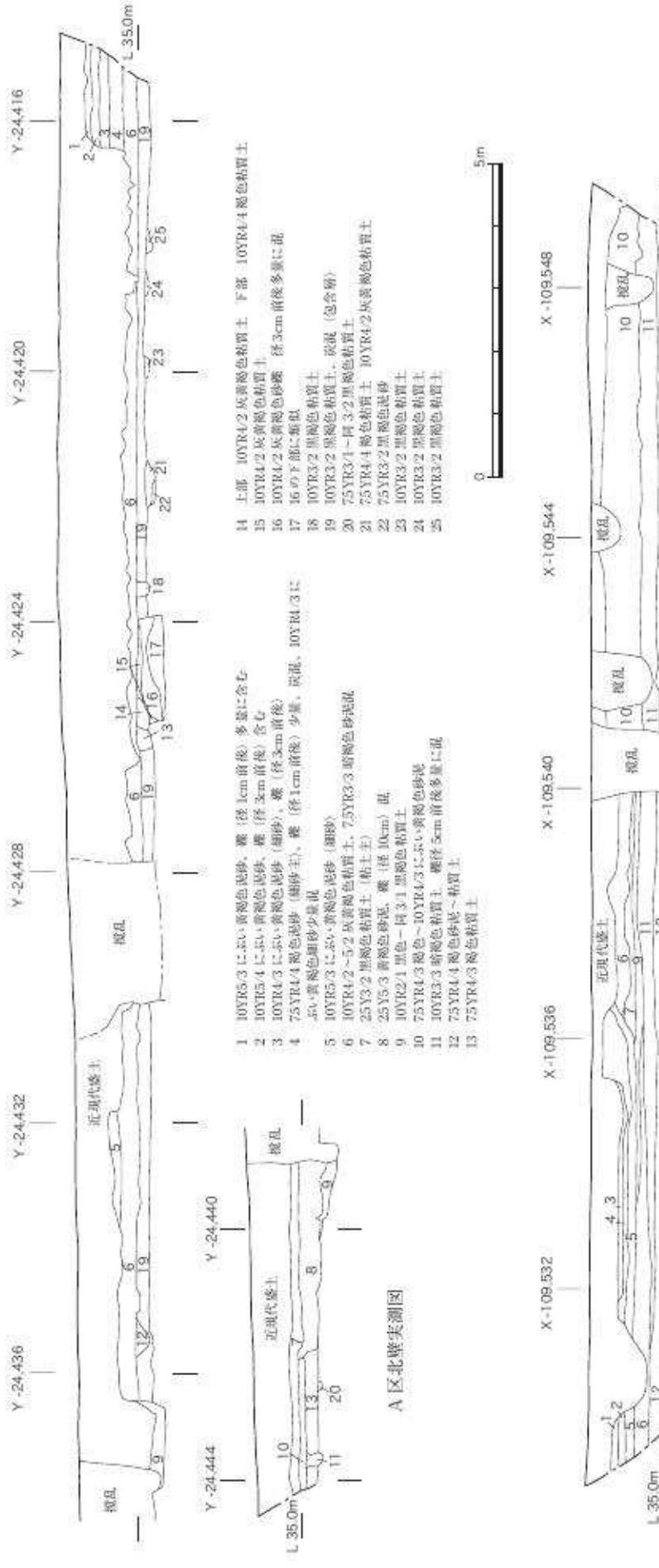
遺構実測図 (1/300)



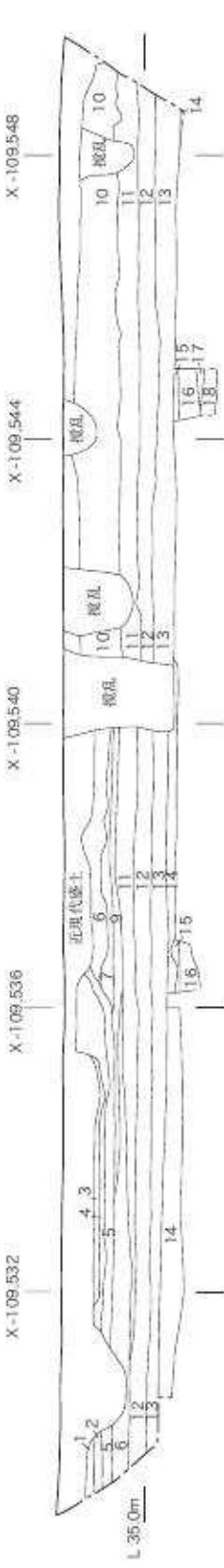


B区遺構実測図 (1/150)

國語遺跡



A区北壁实测图



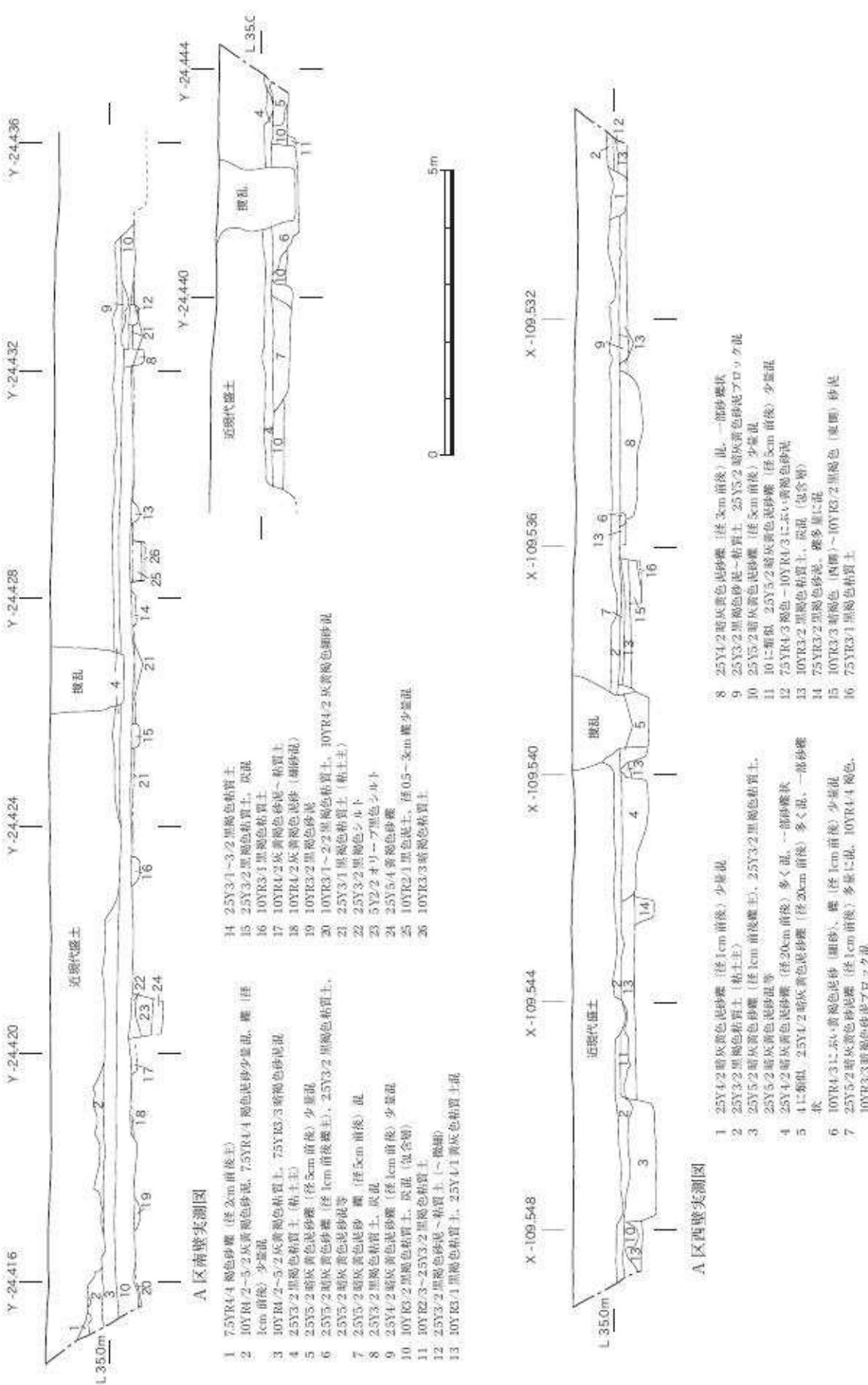
卷之三

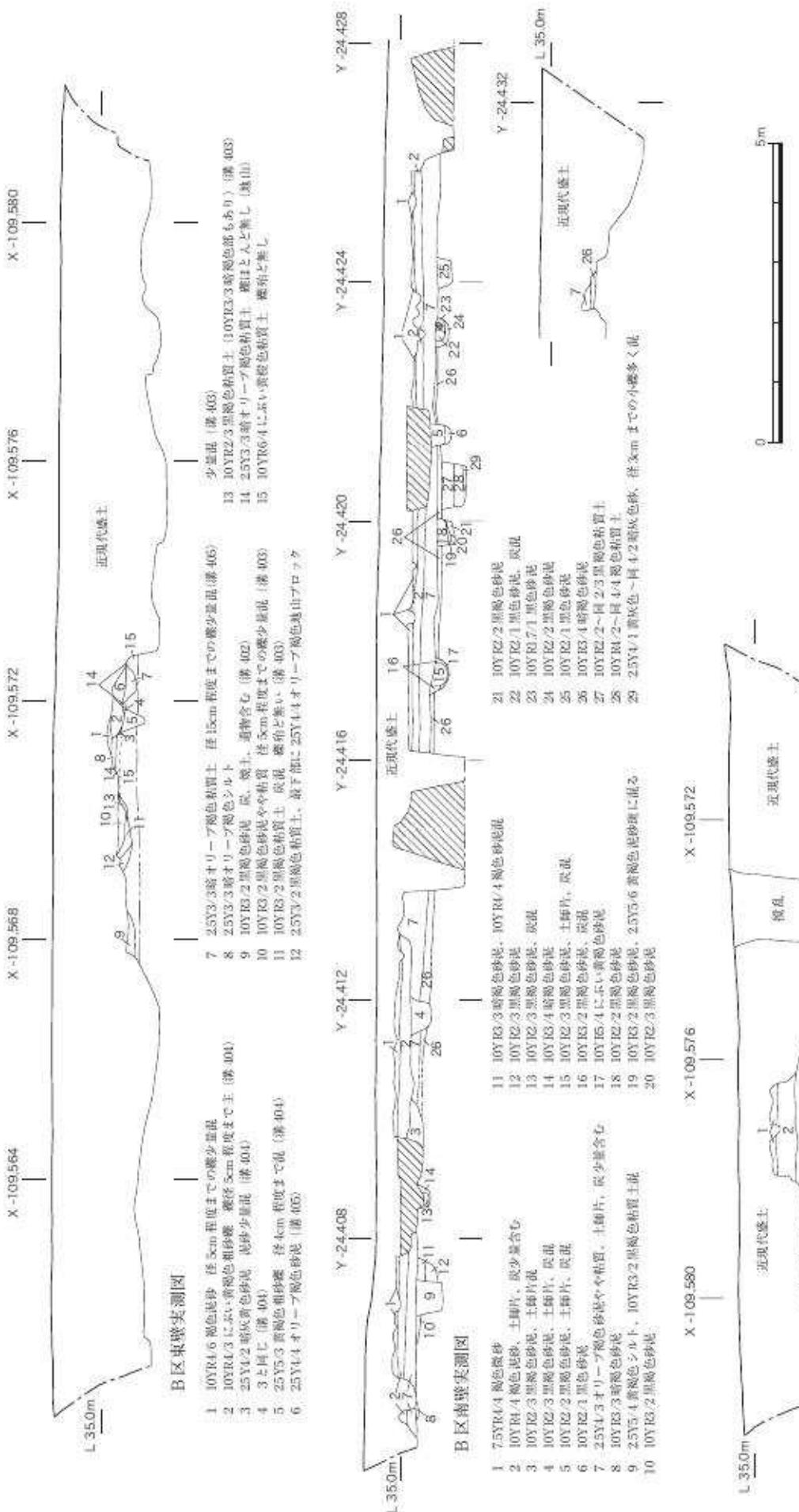
- 1 10YR5/3に5Y3/4の黄褐色地色。縦(径1cm前後)多量に含む。 1 10YR1/2-4回5C2/6黄褐色地色。75YR1/4褐色地色少量。横(径1cm)少量出  
2 10YR5/4-4Y3/4の黄褐色地色。縦(径1cm前後)多量含む。 2 10YR1/2-4回5C2/6黄褐色地色。75YR3/3新褐色少量出  
3 75YR5/4 黄褐色地色。縦(径1cm前後)多量含む。 3 10YR3/3新褐色少量出  
4 10YR5/3に4Y3/4の黄褐色地色。縦(径1cm前後)多量含む。 4 10YR3/1-4回2/2黒褐色粘質土。混(混合土)  
5 10YR4/3に5Y3/4の黄褐色地色。縦(径1cm前後) 5 10YR4/2 黄褐色細砂泥  
6 75YR4/4の褐色地色。縦(径1cm前後) 6 10YR2/4 黑褐色粘质土。粘(粘土)  
7 75YR3/6 黄褐色地色。75YR4/4褐色地色。縦(径1cm前後)少量。深混。10YR4/3に5Y3/4の黄  
8 75YR4/4の褐色地色。縦(径1cm前後)少量。深混。10YR4/3に5Y3/4の黄褐色地色。粘質土  
10YR3/1-4回2/2黒褐色地色。横(径1cm前後)少量。深混。10YR4/3に5Y3/4の黄褐色地色。粘質土  
10YR3/1-4回2/2黒褐色地色。横(径1cm前後)少量。深混。10YR4/3に5Y3/4の黄褐色地色。粘質土

9. IYR5/3 15-61 黄褐色  
10. IYR4/4 鳞色砂砾（经 2-3 前进）

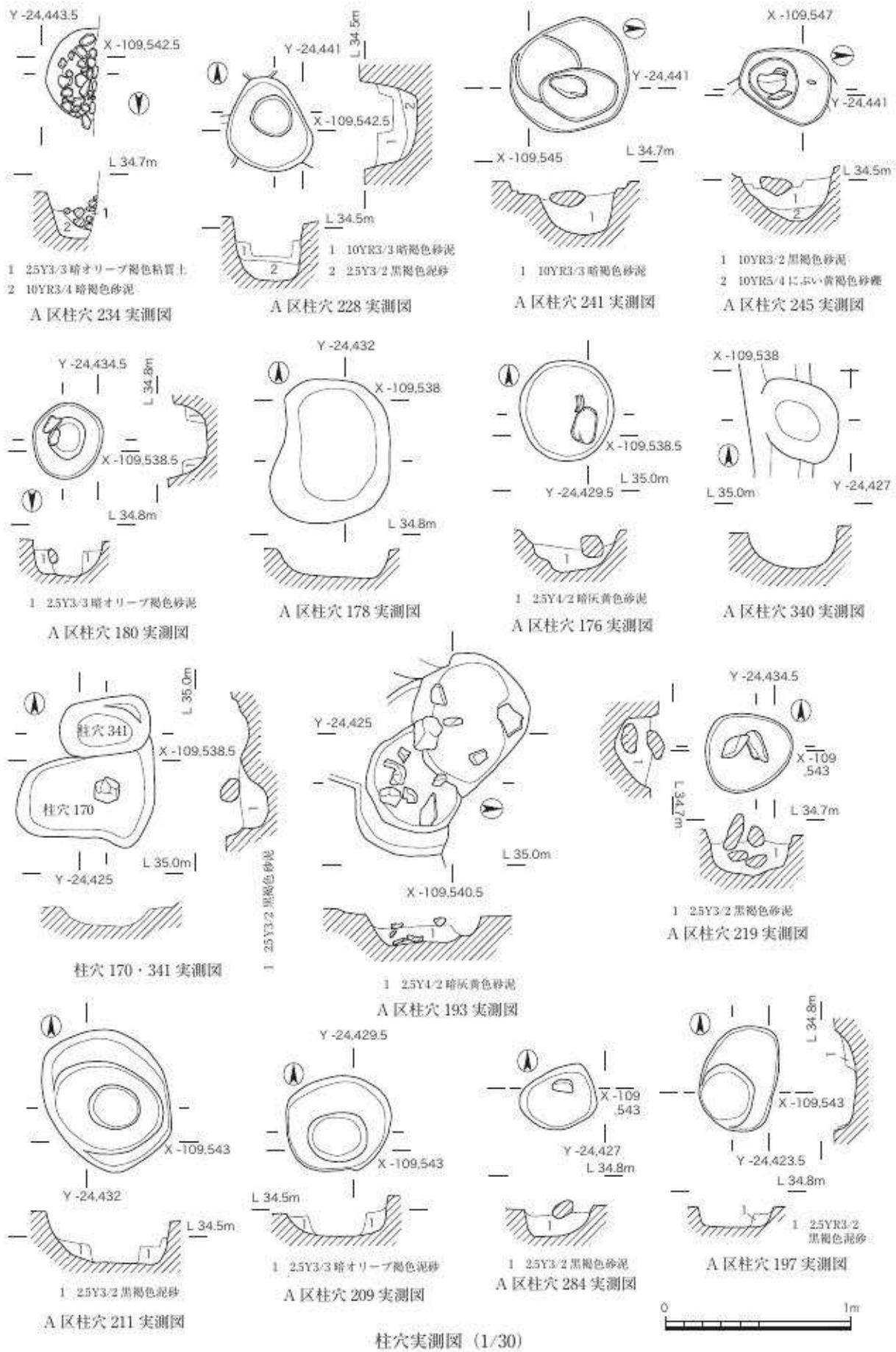
A [X-1] 航空測量圖 (1/100)

A区南壁、西壁实测图 (1/100)

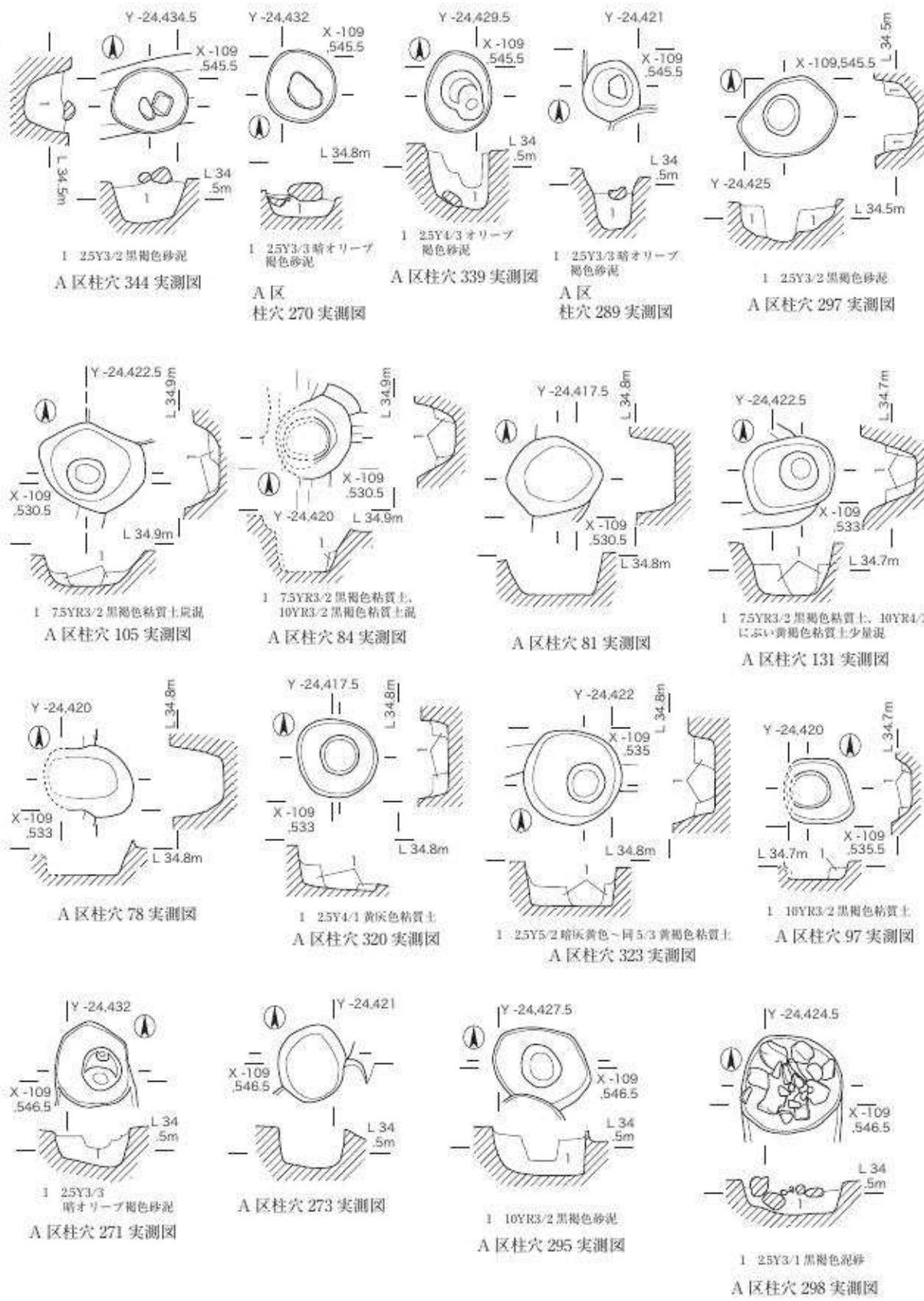




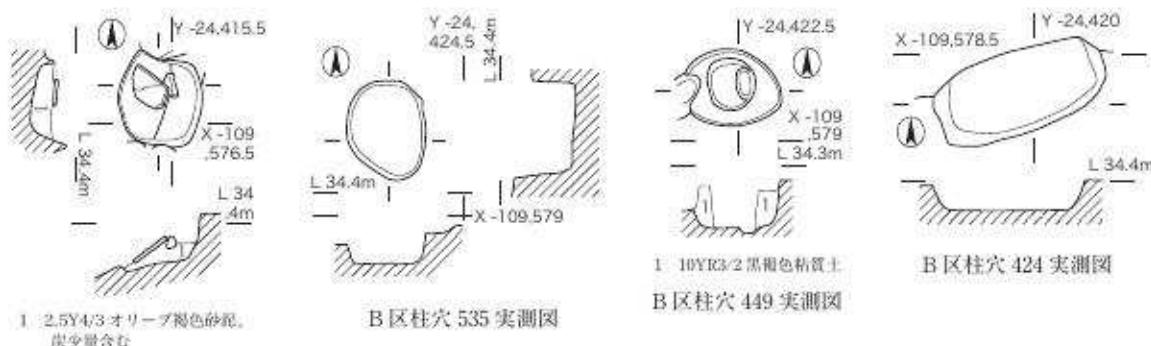
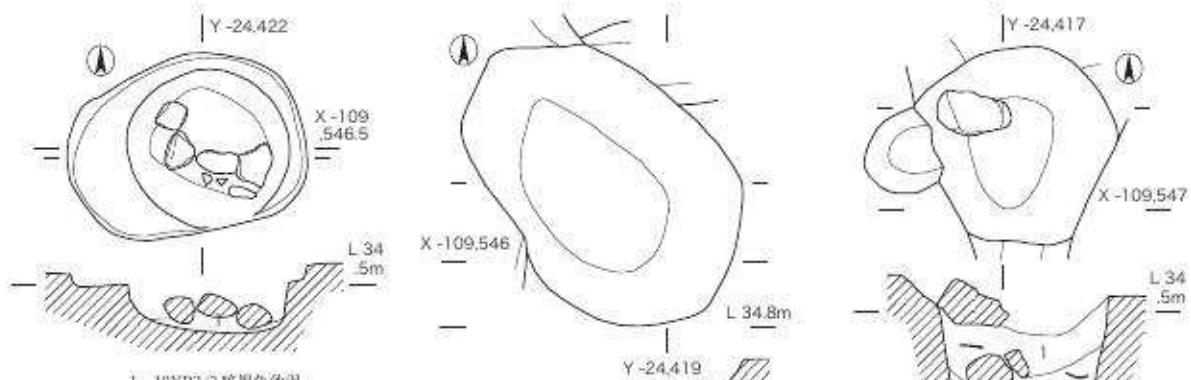
B区東壁、南壁、西壁実測図(1/100)



図版八  
遺跡



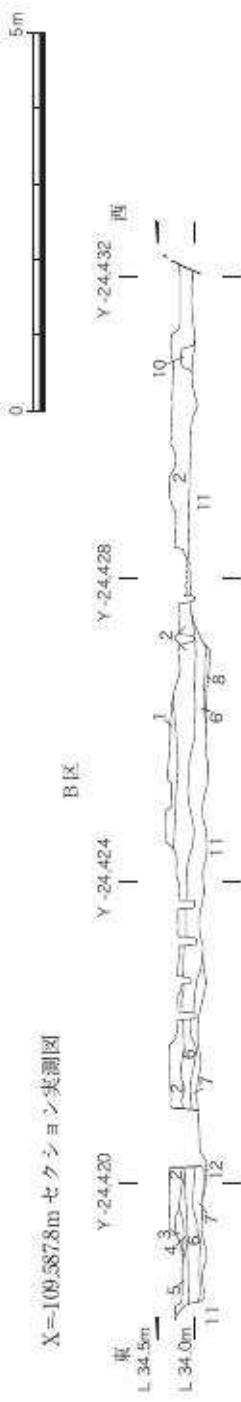
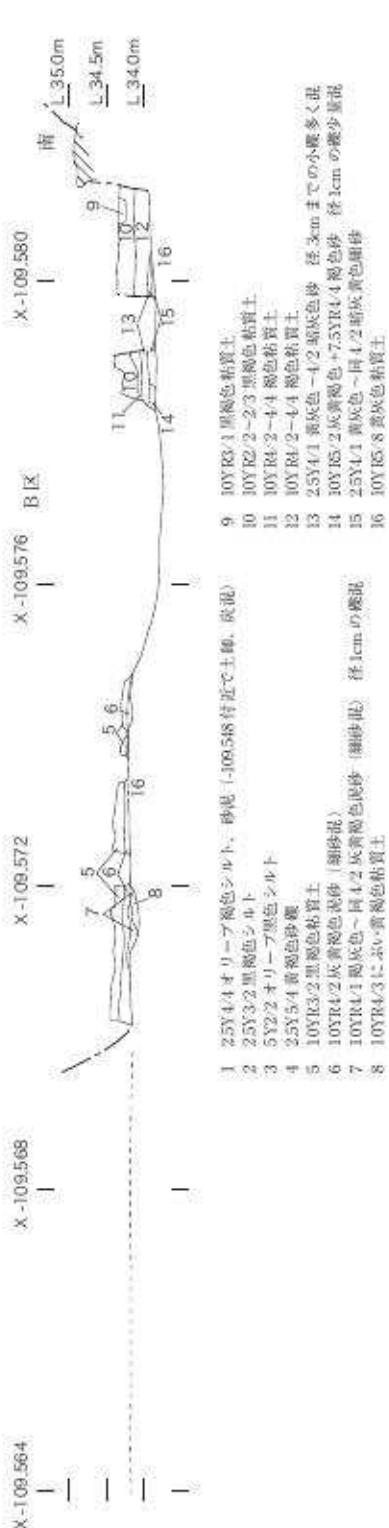
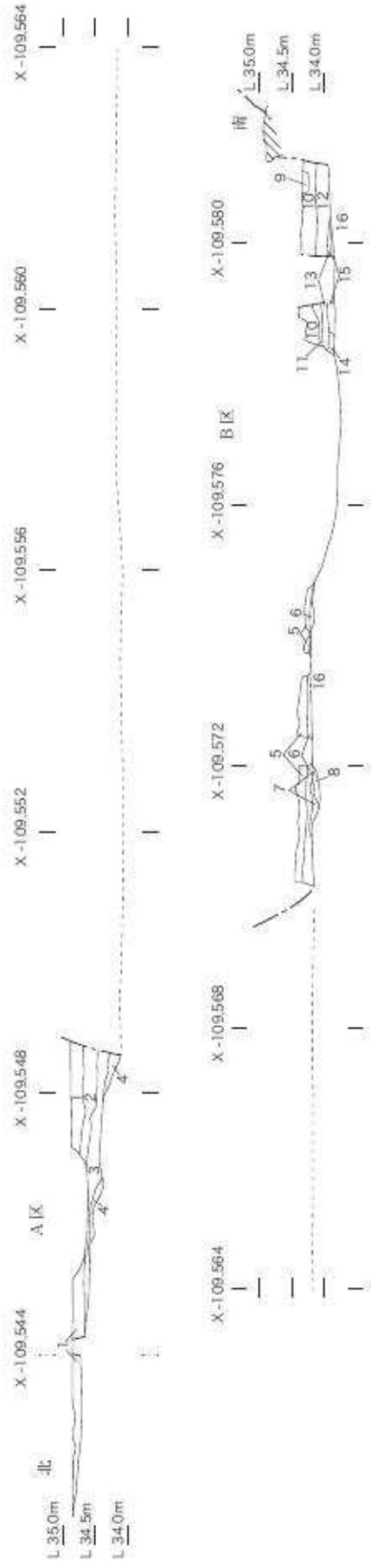
柱穴実測図 (1/30)



柱穴実測図 (1/30)



Y=24,420.2m セクション実測図



セクション実測図 (1/100)



1 調査前風景（南西から）



2 A区全景（西から）



1 A区建物01（北西から）



2 A区建物02（西から）



1 A区建物 03（東から）



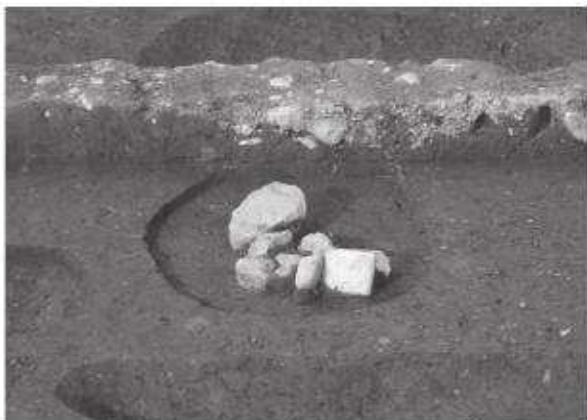
2 A区柵列（北西から）



1 A区土壙 76 (南から)



2 A区土壙 113 (北から)



3 A区柱穴 263 (南から)



4 A区柱穴 154 (西から)



5 A区土壙 221 (北から)



6 A区柱穴 301 (北から)



7 A区柱穴 255 (南から)



8 A区柱穴 298 (北から)



1 B区全景（北東から）



2 B区全景（西から）



1 B区建物04（南西から）



2 B区推定押小路道路部分（西から）



1 B区押小路路面推定部分（西から）



2 B区押小路路面推定部分（東から）



3 B区柱穴 514（南から）



4 B区柱穴 419（北から）



5 B区柱穴 420（北から）



6 B区柱穴 421（北から）



7 B区柱穴 423（北から）



8 B区土壤 488（北から）

圖版十八 遺物



A区包含層(02~06・08・21・22・29・31・41-1~8・62)・A区土壤76(42)・A区土壤113(43)・B区溝404(51~54)・B区断割(01)・A区柱穴263(63)出土遺物

平安京右京三条二坊九・十町  
・西ノ京遺跡・御土居跡

発行日 2010年6月10日

編集  
発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404  
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房  
〒612-0868 京都市伏見区深草直連橋南1-524-24  
TEL (075) 643-6978





